

注意

- 輸液剤等の滴下によりAC電源インレットに薬液がかかってショートすることがあるので、設置場所に注意し、電源コードを接続するときには接続部分が濡れていないことを確認してください。
- IVボール等への固定は確実に行ってください。また、IVボールの安定性を確認してください。
[固定が不確実な場合、移動中の振動などにより、ねじが緩み、本品が落下する可能性があります。]
- プライミング中およびプライミング後は点滴筒を傾ける等、点滴筒内の点滴口部を薬液に浸漬しないでください。
[薬液により点滴口部表面が親水化され、滴の体積が大きくなり、点滴警報の発生および過大注入の可能性があります。]
- 本品の「開始/停止」ボタンを押す前に、輸液の設定(輸液セット、流量、予定量)が正確であることを確認してください。
[設定を間違えると、過大注入または未投与の可能性があります。]
- 薬液は室温に充分なじませてから使用してください。
[本品は、1.冷えたまま使用すると、溶存空気が気泡となり、装置の気泡警報が出やすくなります。2. 輸液セットのチューブが硬くなって、閉塞発生から検出するまでの時間が長くなります。3. 輸液セットのチューブが硬くなって、過大注入、過小注入など、正常な注入が行われぬ可能性があります。]
- 強い静電気が加わらないように注意してください。
[故障や誤動作の可能性があります。]
- 電気メスまたは携帯電話と本品を併用すると、誤動作する可能性があるため、次のことを確認してください。
電気メスのコード(メスホルダ、メスコード、および対極板コード)と本品の距離を25cm以上離してください。携帯電話は本品から1m以上離してください。
- 輸液セットの使用時間は次の条件を守ってください。

輸液セットの材質	点滴数モード(滴下数制御)	JCモード(回転数制御)
PVC (ポリ塩化ビニル樹脂)	72時間以内に新しい輸液セットと交換してください。 [チューブ破損の可能性があります。]	24時間以内にポンプ装着部のチューブを約10cmずらすか、新しい輸液セットと交換してください。 [流量誤差が大きくなる可能性があります。]
PVCフリー (ポリブタジエン樹脂)	24時間以内にポンプ装着部のチューブを約10cmずらすか、新しい輸液セットと交換してください。 [チューブ破損の可能性があります。]	24時間以内にポンプ装着部のチューブを約10cmずらすか、新しい輸液セットと交換してください。 [チューブ破損の可能性があります。]

輸液セットの材質は、使用する輸液セットの添付文書または製造販売元に確認してください。

- 水のかからない場所に保管してください。
- 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分等を含んだ空気等により悪影響の生じる可能性のない場所に保管してください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないでください。
- 傾斜、振動、衝撃等のない安定な状態で保管してください。

携帯形及び移動形 RF 通信機器とJMS輸液ポンプ OT-808 との間の推奨分離距離

JMS輸液ポンプ OT-808 は、放射 RF 妨害を管理している電磁環境内での使用を意図している。JMS輸液ポンプ OT-808 の顧客または使用者は、通信機器の最大出力に基づく次に推奨している携帯形及び移動形 RF 通信機器（送信機）とJMS輸液ポンプ OT-808 との間の最小距離を維持することで、電波障害を抑制するのに役立つ。

送信機の 最大定格 出力電力 W	送信機の周波数に基づく分離距離 m			
	150kHz~80MHz ISM 帯域外 d=0.4√P	150kHz~80MHz ISM 帯域内 d=1.2√P	80MHz~800MHz d=1.2√P	800MHz ~ 2.5GHz d=2.3√P
0.01	0.04	0.12	0.12	0.23
0.1	0.12	0.38	0.38	0.73 →
1	0.35	1.2	1.2	2.3
10	1.11	3.8	3.8	7.3
100	3.5	12	12	23

× 1.25
= 0.913m
= 1 m

上記にリストしていない最大定格出力電力の送信機に関して、メートル (m) で表した推奨分離距離 d は、送信機の周波数に対応する方程式を用いて決定できる。ここで、P は、送信機製造業者によるワット (W) で表わした送信機の最大定格出力電力である。

注記 1. 80 MHz 及び 800 MHz においては、分離距離は、高い周波数範囲を適用する。

注記 2. 150kHz~80MHz の ISM (工業、科学及び医用) 帯域は、6.765MHz~6.795MHz、13.553MHz

~13.567MHz、26.957MHz~27.283MHz、及び 40.66MHz~40.70MHz である。

注記 3. 移動形/携帯形通信機器を不注意に患者環境にもち込む場合に引き起こす障害の可能性を低減するために、150kHz~80MHz 迄の ISM 周波数帯域と 80MHz~2.5GHz の周波数範囲では、送信機に対する推奨分離距離の計算では、10/3 の追加係数を用いている。

注記 4. これらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収及び反射は、電磁波の伝搬に、影響する。

テルモのシリンジポンプも、全く同じデータがマニュアルに掲載されている。

ドコモのFOMAの出力は最大約0.25W、ちなみに旧型のmovaは最大約0.8W、PHSは約0.01W~0.1W

「LTE」: 「Long Term Evolution」

ドコモの800MHz (Band 19)、1.5GHz (Band 21)、1.8GHz (Band 3)、2.1GHz (Band 1)、この4つを合わせてクアッドバンドLTEと呼びドコモは自社のLTEを「Strong.」とPRしている。

WiMAXは2.5GHz。